

# 会 議 録

会議の名称	平成29年度 第2回和泉市外部評価委員会 (和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び和泉市総合計画に係る事務事業の評価等に関する外部評価委員会)
開催日時	平成29年8月31日(木) 午前10時から正午まで
開催場所	和泉市役所3号館3階 市議会委員会室
出席者	<p>【委員】 (順不同) 小長谷委員長、吉弘副委員長、山下委員、山中委員、篠原委員</p> <p>【事務局】 石川副市長、藤原副市長、 森吉参与、小泉市長公室長、山崎政策企画室長、 佐々木企画経営担当課長、奥企画経営担当総括主幹、和田企画経営担当主事</p> <p>【事業担当課】 政策企画室政策推進担当：菅野政策推進担当課長、蓮池政策推進担当総括主査</p>
会議の議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会あいさつ</li> <li>2 評価対象事業の概要説明             <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚新生活支援事業</li> </ul> </li> <li>3 事業の評価             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業</li> <li>(2) 住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業</li> <li>(3) 地域農業振興事業</li> <li>(4) 結婚新生活支援事業</li> </ol> </li> <li>4 閉会あいさつ</li> </ol>
会議の要旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度に実施した交付金・補助金事業4事業のうち、1事業の概要について、事業担当課から説明を受け、質疑応答を行った。</li> <li>・平成28年度に実施した交付金・補助金事業4事業について、委員による評価をおこなった。</li> </ul>
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他 ( )
その他の必要事項	傍聴者 1名

## 1 開会

□司会者（政策企画室 山崎室長）

おはようございます。政策企画室長の山崎でございます。それでは、定刻となりましたので、ただいまから、第2回和泉市外部評価委員会を開催させていただきます。本日は、委員の皆様方におかれましては公私ご多用のところ、本委員会にご出席賜り、厚く御礼申し上げます。

それでは、会議を始めさせていただく前にお配りしております資料の確認をさせていただきたいと思っております。まずは、事前に配布させていただいております緑色のファイルのほか、本日、机上配布させていただいております。

○次第

○出席職員名簿

○資料1 事業評価の項目

以上でございますが、資料の不足等はありませんでしょうか。

ここで、会議録の作成についてご説明させていただきます。本会議の会議録作成のため、発言内容を録音させていただきますが、会議録作成後は、録音内容を消去いたします。録音のため、お手数ですが、ご発言の際は、マイクのご使用をお願いいたします。また、会議録について、発言者の氏名を公表して作成しますことをご了承願います。

それでは、会議の進行につきましては、小長谷委員長にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

## 2 評価対象事業の概要説明

■小長谷委員長

おはようございます。

さて、前回の会議では、評価対象となっている4事業のうち、3事業について、事業所管からの事業概要説明、そして、評価を行うための質疑応答を行ってまいりました。本日の会議では、残りの1事業について、事業所管課からの説明及び質疑応答を行った後に、評価対象事業の4事業についての評価を実施してまいりたいと思っております。評価の実施方法については、本日、配布されている「資料1 事業評価の項目」に記載されている評価項目に基づき、委員皆さんの評価を、理由も含めてお聞きしたいと思います。そのうえで、「評価①」及び「評価②」についての評価については、最も多かったご

意見を本委員会の「評価」とするとともに、ご発言いただいた「評価理由」や「今後の事業推進にあたっての意見・アドバイス等」を本委員会の答申に盛り込んでまいりたいと考えておりますので、委員皆様のご協力をお願いいたします。

それでは、「結婚新生活支援事業」につきまして、事業所管から説明をお願いします。なお、説明の前に、所属とお名前をおっしゃっていただきますようお願いいたします。

□政策企画室 菅野課長

市長公室政策企画室の菅野でございます。

資料9「地方創生関連交付金等事業評価シート」に基づいて、「結婚新生活支援事業」について、ご説明いたします。本事業の事業期間は平成28年度の1年のみとなっており、担当課は市長公室政策企画室でございます。

それでは、交付金事業の概要について説明させていただきます。本事業は、世帯所得300万円未満の新規に婚姻した世帯に対して、婚姻に伴う住宅取得又は住宅賃借に係る費用について支援を行うものです。対象となる費用は、住宅の取得費、住宅賃借に関しては、賃料、敷金、礼金等（保証金などこれに類する費用も含みます）、共益費、仲介手数料となっており、18万円を上限に補助するものです。補助件数につきましては、先着順で37件としており、申請期間は平成28年6月1日から平成28年12月28日までとしておりました。対象費用や補助要件、補助金額は、国の「結婚新生活支援事業費補助金交付要綱」に準拠しており、一部国の補助金を活用して実施いたしました。なお、本事業は「和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる、3世代近居・同居の取組の一環として、市外流出の防止と親元近居を促すため、夫婦のどちらかの親世帯が、和泉市に住民登録していることを、市独自の要件として設定いたしました。

次に、事業の背景及び目的でございますが、本市は、これまで大阪市等のベッドタウンとして宅地開発が行われ、人口が増加してきましたが、平成27年12月に策定した「和泉市人口ビジョン」での分析では、男女とも「20～24歳が25～29歳」になる時の人口流出が顕著となっていることが明らかになり、その要因は、就職や結婚が大きく影響しているものと推察されます。合計特殊出生率については、近年国や大阪府では上昇傾向にあるものの、本市では下降傾向にあり、平成25年度の合計特殊出生率は、国の1.43を下回る1.37となっております。こうした状況を踏まえ、経済的理由から結婚に不安を抱えている方に対し、結婚式場案内所等各種企業との連携を図りながら、経済的負担の軽減に取り組むため、新婚世帯の住居費を支援することにより、結婚に伴う経済的不安を解消し、結婚の希望をかなえるとともに、少子化対策の強化を図ろうとするものです。

次に、本事業の予算額は、660万円を計上し、決算額は136万3,500円でございます。

次に、平成28年度の取組といたしましては、補助金交付という本事業の性質上、対象者への制度

周知が事業の成否を左右することから、市広報紙、ホームページへの掲載、婚姻届の受付窓口である市民室、各公共施設、結婚式場案内所等各種企業の窓口へのパンフレット配架とともに、各町会の回覧板、子育て世代向けフリーペーパーへの記事掲載などの広報活動を実施しました。参考としまして、各窓口配架しましたパンフレットをお手元にお配りしております。取組の意図・目的としましては、制度情報を対象者に届けるため、婚姻や住み替えに関わる窓口を中心に周知を図りました。

このような制度周知に係る取組を行いました。37件の交付目標に対しまして、8件の実績となり、目標件数には達しませんでした。なお、支給者の世帯所得分布としましては、200万円未満が4件、200～250万円未満が2件、250～300万円未満が2件でございました。

次に裏面をご覧ください。KPIでございますが、「婚姻率」を設定しております。平成28年度の目標値3.95に対しまして、実績値は3.48でございました。

次に、所管課の評価でございますが、平成28年度における取組の効果としては、交付者を対象にアンケート調査を実施した結果、概ね「経済的支援に繋がった」との回答を得、本事業は経済的支援策としては有効であったと考えられますが、KPIである婚姻率の目標値達成には至らなかったことから、「あまり効果的ではなかった」と考えております。

次に、目標値達成状況にかかる要因分析ですが、本事業の実施により、婚姻率の減少に歯止めを掛けることに、一定寄与したと考えられるものの、「婚姻率」については、社会経済状況や人口構成などの外的要因に大きく左右されるものであることから、実績値は、目標値はおろか現状値（3.75パーミル：H26）を下回る結果となったため、目標を達成することはできませんでした。

次に、交付金対象事業の必要性ですが、交付者を対象としたアンケート結果から本事業は経済的支援策としては、有効であったと考えられること、また、結婚に伴う経済的不安の解消に向け、事業効果の検証結果を踏まえながら補助要件の見直し等を行い、継続して取り組む必要があることから、「一部見直しを行い維持」としております。

アンケート結果に関しましては、「和泉市結婚新生活支援事業アンケート調査結果」をお手元にお配りしております。

最後に、平成28年度取組成果・効果を踏まえた今後の事業展開でございますが、本事業は、平成28年度が事業初年度であったため、事業内容の周知が不十分でありましたが、1年間の取組により、一定の認知が進んできているものと考えております。今後は、不動産事業者等との連携や申請期間の伸長、補助要件の見直し等を行い、交付件数の増加を目指していきたいと考えております。

なお、本事業は、国の補助制度を活用したモデル事業として、試行的に取り組んでいるものであり、この補助制度を活用しながら、事業効果等の検証を行い、その結果を踏まえて今後の展開を検討していきたいと考えております。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

■小長谷委員長

担当課からの説明が終わりましたので、質疑応答に移ります。本事業の内容等について、ご質問はありませんか。

■吉弘副委員長

8件の申請にとどまったということですが、申込みの件数が8件にとどまったのか、または、申込みの件数はもう少しあって、要件が満たされずに諦められた方がいるのか。補助に至らなかった理由で最も多いものは、どういったものだったのかを教えてください。

□政策企画室 菅野課長

相談件数は結構ありましたが、補助に至らなかった一番大きな要因としましては、300万円の所得制限です。後は、親世帯が和泉市に住民登録を行っているという要件を満たさなかった方も何名かいらっしゃいました。

■吉弘副委員長

相談は何件かあったということですが、具体的にどれぐらいでしょうか。37件以上の相談件数があったのであれば、要件を見直す余地があり、相談件数そのものが少ないのであれば、周知方法を検討する必要があると思います。

□政策企画室 菅野課長

手元に資料がございませんので、正確な数値は分かりませんが、毎月5件程度の相談があり、全部で30件以上はあったかと思います。

■篠原委員

事業の趣旨として、市外流出の防止や三世代同居・近居の促進であると思いますが、所得制限を300万円とした根拠は何でしょうか。

□政策企画室 菅野課長

300万円の所得制限ですが、国の補助制度を活用していますことから、国の要領に基づき、設定したものでございます。所得の要件については、年収300万円未満の20～30代の男性は、300万円以上400万円未満の男性に比べて既婚率が低いという結果を鑑みて、設定されています。

■山中委員

KPIの結果だけを見ると、残念ながら効果があったとは考えにくい。しかし、他の自治体も同様の取組を進める中で、直ちに廃止することが適当ではないと思います。周知方法や要件の見直しをすることで、改善を図ってほしいと思います。なお、和泉市に住む決め手としては、結婚時の支援よりも子育て・教育支援に重点を置いていることであると考えます。これらも踏まえて見直しを検討されてはどうかと思います。

#### ■山下委員

国の制度で所得要件が決められている中で、周知をしても条件に合わない人がたくさんおられると思いますが、まだまだ他のPR手法があると思うので、SNS・ホームページ等を活用し、もっとPRしていただきたいと思います。

#### □政策企画室 菅野課長

今年度も本事業を実施しています。今年度は、所得要件を300万円から340万円に引き上げております。引き続き、国には所得制限の緩和を要望し、周知の方法や申請期間の延長などの工夫をして、申請件数を増やしていきたいと考えています。

#### ■小長谷委員長

他に質問はないようですので、これで終了します。ありがとうございました。

### 3 事業の評価

#### (1) 美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業

#### ■小長谷委員長

それでは、評価対象事業の概要説明、質疑応答が全て終了しましたので、いよいよ事業の評価を行ってまいりたいと思います。

先ほども申し上げましたが、「資料1 事業評価の項目」に記載されている項目について、各委員からご発言いただき、本委員会の評価、また答申に盛り込むべき内容について、まとめてまいりたいと思います。

それでは、一つ目の事業「美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業」について、評価してまいりたいと思います。

1事業20分程度を目途に評価をまとめていきたいと思います。まず、「取組内容に対する評価」について、有効であったか、それとも、有効とは言えなかったのかを評価いただき、併せて、その理由についてご発言いただきたいと思います。

#### ■吉弘副委員長

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由としては、来場客数の増加など、目に見える形で成果が出されていると思います。

#### ■山下委員

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。美術館を核としてイベントを行い、かなりの人員を集められたことを踏まえて、有効であったと考えております。

#### ■山中委員

各種イベントや観光路線実証実験バスには、当初の想定を上回る来場者や利用者があったことから、評価は「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。また、KPIの「和泉市久保惣記念美術

館の年間来館者数」について目標を達成しており、取組の成果としては、効果があったと考えます。

一方で、「エリア内主要施設への来訪者数」は目標を下回っており、エリア全体の魅力向上を図る点では課題を残しているのではないのでしょうか。

#### ■篠原委員

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由としては、エリア内主要施設への来訪者数は目標値に達することができませんでしたが、久保惣記念美術館の入館者数が目標を大きく上回った点と、地域のアーティストや大学とのコラボレーションによるイベントを開催したことなどが、施設の周知と動員の増加に繋がったと思います。

また、父鬼バイパス開通記念イベントについては、企画力が優れていると感じました。「ここでしか体験できない」という点を追及することで、多くの人の関心を得る要因になったと考えます。

#### ■小長谷委員長

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。近年、アートの活用や大学等教育研究機関との連携によるまちづくりは、創造都市的政策として重視されており、良い取組であると思います。久保惣記念美術館の来館者数の増加も踏まえて、有効であったと考えます。

次に、「今後の事業実施方針」について、委員皆さんの評価が、「資料1 事業評価の項目」にも記載されている「評価項目1～4」のいずれに該当するのか、また、その理由についてご発言ください。

また、今後、市が、本事業を推進されるにあたり、意見やアドバイスがある方は、併せてご発言をお願いします。

#### ■吉弘副委員長

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。理由としては、周辺観光施設を周遊させるという計画を立てているものの、どのように周遊させるかは難しいと思います。久保惣ミュージアムタウン構想の対象区域は徒歩圏内とはいええないため、自動車等に頼らざるをえませんが、周辺道路環境は狭隘で、必ずしも快適とは言い難いと思います。周辺インフラの状況を踏まえて、どのように賑わいの創出していくのかは、時間をかけて検討する必要があると考えます。

今後の事業推進にあたっては、美術館を核とし、その他の公園施設等も観光資源として活かすとの発想ですが、それが空間全体の価値を引き上げるまでには至っていないと思います。まち歩きなどのイベントで成功しているエリアは、多くの場合、かなり時間をかけ、どのような歴史的価値があるのかを掘り起こし、そのエリアに住んでいる方は愛着を持っています。このことから、地域資源の歴史的・文化的価値の掘り起こしと、地域住民が地域に愛着をもつことが、来訪の促進につながると考えます。

また、時間がかかる取組であるので、各種施設の更新や建て替えを含めて、中長期的にどのように

エリアの価値を高めていくかを検討しなければならないと思います。

#### ■篠原委員

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。小長谷委員長の評価にもあったように、産学が連携して、地域を巻き込んで取り組んだというところが良かったと思います。ただ、告知方法を工夫すれば、更に動員数を伸ばせたのではないかと思います。

イベントについては、常に新しい企画を投入して市内外の人々の関心を集めることが大事なので、今回の体験を生かしつつ、今後の企画に期待したいと思います。

「ミュージアムタウン」については、アートと地域振興をうまく組み合わせた事例もあるので、その手法を学ぶことが有益だと考えられます。また、回遊させるための無料シャトルバスの運行なども必要ではないでしょうか。更に、観光やアートについては、ホームページへの掲載だけでなく、SNS を効果的に活用した PR をすべきと考えます。

#### ■山中委員

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。先ほども申し上げた通り、KPI である「和泉市久保惣記念美術館の年間来館者数」を達成したことは、取組の成果であると思いますが、一方で、「エリア内主要施設への来訪者数」は目標値を大きく下回っており、エリア全体での魅力向上は当然ですが、篠原委員のおっしゃったシャトルバスを増やすなどの利便性の向上と、市民自らが参加し競い合うようなイベントなど、話題性のあるものを企画するともっと盛り上がると思います。また、他の委員がおっしゃった SNS を使った周知も有効であると考えます。

#### ■山下委員

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。実施した全ての事業は、和泉市への観光客を呼び込むために有効であると考えます。また、採算性も考慮しながら、「和泉・久保惣ミュージアムタウンコンソーシアム」の設置の検討を前向きに進めていることも評価できる点です。

今後の事業推進にあたっては、和泉市久保惣美術館を中心とした観光ルートマップの充実、観光ガイドの作成、周遊バス・レンタル超小型 EV モビリティの導入に取り組むことにより話題性を高め、来て喜んで頂ける観光スポット作りを進めてほしいと考えます。更に、イベント情報や、観光ガイド等の情報発信に、携帯サイトや、SNS 等を活用し情報を広めると、若い年齢層の集客になると考えます。

#### ■小長谷委員長

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。取



組は、とても素晴らしい試みなのですが、今後、交通整備や飲食等のサービス業との連携、広報については、北大阪・関空方面にも発展させ、南海電鉄とも連携を図るべきであると考えます。また、エリア内主要施設におけるテーマが、エコとアートで異なるので、どのように関連付けていくのかも検討する必要があると考えます。

それでは、本事業について、委員皆様の評価やご意見が全て出揃いましたので、本委員会としての評価について、まとめてまいりたいと思います。

取組に対する評価としては、委員全員が「1. 取り組んだ内容は、有効であった」という評価でした。

その理由を整理いたしますと、

- ・「和泉・久保惣アート祭」について、想定を上回る来場者であったこと、
- ・「鍋谷峠道路・父鬼バイパス開通記念イベント」については、企画力が優れていること、
- ・そのイベントにおいて「送迎バス」を運行し、参加者の「交通手段」を確保したことは、参加者の満足度を高めることができたと思われること、
- ・また、その送迎ルートについても、久保惣美術館を経由するルート設定により、回遊性の課題に一步踏み出したと考えられること、
- ・設定したKPIについて、「エリア内主要施設への来訪者数」は達成できなかったことを踏まえエリアの設定を工夫する必要があるのではないか、

などがご意見だったと思います。

平成 28 年度の取組を踏まえた今後の事業実施方針に対する評価ですが、委員全員が「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」という評価でした。

その理由を整理いたしますと、

- ・アートを使った創造都市政策は注目されていること、
- ・ミュージアムタウンという概念を設定した点は評価できること、
- ・飲食等の地元のサービス業との連携、来訪者の交通手段の確保、継続的なイベントの開催が重要であり、イベントの開催にあたっては、例えば地元の芸術大学の学生さんとの協力により、低予算での実現が可能と考えられること、
- ・今後、美術館や周辺施設の歴史的・文化的価値を踏まえて、エリア全体の価値を引き上げることができるよう、取組を推進することが重要であること、
- ・市民にミュージアムタウンについて誇りをもってもらうといった「シビックプライド」の醸成が重要であること、
- ・若い年齢層の集客に向け、効果的なSNSの活用について検討が必要であること、

が挙げられます。

その他の意見としては、

- 「ミュージアム」というテーマでエリアを盛り上げるのであれば、「エコ」や「花」を利用したアートを制作するなど、エリア内施設に関連性を持たせることが必要である、
- 国の補助制度を活用して超小型二人乗りEV（電気自動車）等を導入するなど、話題性を高め、来て楽しめる観光スポットづくりを進めていただきたい、
- ルートマップやガイドに加えて、地域誌で取り上げていただく戦略も有効である、
- 現在実施している「広域観光路線実証実験」については、利用人数がさらに増加するよう取り組まれるとともに、その結果を十分に分析することが必要である、

などがご意見だったと思います。

その他、本委員会の答申に盛り込むべきとお考えのご意見はございませんか。

特にないようですので、次の事業に評価に移ります。

## （２）住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業

### ■小長谷委員長

それでは、「住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業」について、評価してまいりたいと思います。まず、「取組内容に対する評価」について、有効であったか、それとも、有効とは言えなかったのかを評価いただき、併せて、その理由についてご発言いただきたいと思います。

### ■吉弘副委員長

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由ですが、パイロット的な施策が立ち上がり、共助サービスの成果が上がっていることは、評価できます。

### ■篠原委員

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由としては、すべての目標値を達成しており、特に「サービス利用者数」の実績値が倍増以上している点が評価できます。なお、今後の活動におけるPRについては、チラシ以外の工夫がほしいと思います。

### ■山中委員

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由としては、高齢化が進み、様々な課題が発生する中で、市民のニーズを分析したうえで、様々な取組を進めていること、また、KPIもすべて達成しており、評価できるのではないかと思います。

### ■山下委員

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由としては、実施したアンケートの回収率も51%と高く、幅広い年齢層の方からの日常生活の困りごとや、悩みやサポート活動に対す

るニーズが把握できたことは有効であると考えます。また、住民の方のサポート活動への参加意識も把握できている点も評価できると思います。

#### ■小長谷委員長

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由としては、行政として、地元の組織をつくっていく萌芽的段階としては、成功といえるのではないのでしょうか。今後は、市民の主体性を高めていく必要があると考えます。また、町会等の既存コミュニティとの関係性や高齢者の交通手段の確保について検討することが重要になると考えられます。

それでは、「今後の事業実施方針」について、委員皆さんの評価が、「資料1 事業評価の項目」にも記載されている「評価項目1～4」のいずれに該当するのか、また、その理由についてご発言ください。

また、今後、市が、本事業を推進されるにあたり、意見やアドバイスがある方は、併せてご発言をお願いします。

#### ■吉弘副委員長

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」ですが、発展手法については、検討が必要と考えます。日本では、共助組織として、伝統的に自治会が大きな機能を果たしてきましたが、近年、自治会の組織率は低下している状況です。そうした中、この事業は、学校区レベルで共助組織を立ち上げるという取組になっています。共助組織を新たに立ち上げる場合は、既存の共助組織と新しい共助組織の関係性を整理することが必要です。自治会が機能している地域では、共助の仕組みが機能しているので、新たに組織を立ち上げることなく、自治会に取組を実施してもらうという方法もあります。和泉市の共助組織をどう捉えるのかを整理し、この事業をどう位置づけるかを検討することが、事業を活かすために必要ではないかと考えます。

#### ■篠原委員

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。理由としては、モデルとなっている3団体のさらなるサービスの充実が、今後の水平展開の大きなポイントとなると考えます。平成30年度からは新たに活動する地域を増やすとのことですので、期待したいと思います。また、フォーラムの開催等を予定しているとのことですが、サービスの内容をもう少しわかりやすく伝えるための手法を検討することが必要であると考えます。「顔の見える関係」を構築することは時間がかかりますが、着実に成長させてほしい事業であると考えます。

#### ■山中委員

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。理由としては、少子高齢化進む中で、本事業に対するニーズはますます高くなっていくものと思われるま

すので、発展させてほしいと思います。

今後の事業推進にあたっての意見ですが、利用者がサービスを受けた結果どうだったか、また、どう改善してほしいかを分析し、事業のバージョンアップを図ってほしいと思います。また、若者の方向けの取組も試行的に実施してみてもどうでしょうか。

#### ■山下委員

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。理由としては、高齢化が進む中、住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点を作ることは必要であり、実施した調査や事業提案書に基づき、今後、事業拡大や地域拡大を図るべきであると考えます。また、「みんなで取り組む地域づくり協議会」で決まったことや、団体の活動内容を全地域の住民に知ってもらうことが必要で、早い段階で全地域に支援体制が整うように取り組んで欲しいと思います。そして、新たに活動する団体を増やすため、事務局が中心となって活動を広めていただきたいと思います。

今後の事業推進にあたっては、現在、活動しているモデル地域3団体は、過去に開発されたニュータウン地区であるため、今後、昔からの市街地の地区でもサポート体制を組織化できるよう、取り組んでほしいと思います。また、アンケート結果により、地域の具体的なニーズが把握出来ていると思うので、それをうまく活用してサービスを利用しやすくし、より多くの方にサービスを提供することであれば、住みよい地域をつくることできると思います。

#### ■小長谷委員長

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。先ほども申し上げましたが、既存の地縁組織と棲み分け・分担をどのようにしていくのか、また、市民の主体性を高め、行政から独立して実施していくための手法を確立することが必要であると考えます。そして、高齢者の交通手段の確保が重要です。

それでは、本事業について、委員皆様の評価やご意見が全て出揃いましたので、本委員会としての評価について、まとめてまいりたいと思います。

取組に対する評価としては、委員全員が「1. 取り組んだ内容は、有効であった」という評価でした。

その理由を整理いたしますと、

- ・事業を展開していくうえで、アンケートを実施したことは評価が高く、アンケートにより幅広い年齢層の方のニーズを把握できたことは有効であること、
- ・市民のサポート活動への参加意識について把握している点も評価できること、
- ・設定した全てのKPIが、目標値を上回っていること、

などがご意見だったと思います。

今後の方針に対する評価については、委員全員が「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」という評価でした。

その理由を整理いたしますと、

- ・高齢化が進展するなかで、本事業に対するニーズがさらに高まるものと考えられるため、できる限り早い時期に全地域でサポート体制が構築できるよう取り組んでいただきたいこと、
- ・「顔の見える関係」を構築することは、時間を要するものであるが、まずは、本事業の活動内容や「地域づくり協議会」で議論された内容など分かりやすく市民に伝えることが重要であるので、「チラシの配布」や「フォーラム開催」以外の手法についても検討いただきたいこと、
- ・より市民の主体性を高め、行政から独立して取り組んでいくための方法を確立させることが必要であること、

が挙げられます。

その他の意見としては、

- ・本事業の推進においては、市の財源を複数の類似団体に支出するといった「二重行政」に陥ることのないよう、既存の地縁団体との差別化・棲み分けについて十分に考慮する必要があること、
- ・併せて、家事代行や買い物付き添い等の、既に民間事業者が有料で行っているサービスとの棲み分けについても、検討することも必要でしょう。
- ・また、サービスの充実に向け、活動者に対して定期的な研修を開催するなど、フォローアップも必要と考えます。
- ・加えて、高齢化が進展する中においては、「高齢者の交通手段」を確保することが求められることから、平成29年度に取り組まれる「デマンド型交通実証運行」の実績を踏まえ、「ルート交通」以外の交通手段についても、検討をすすめていただきたいと思います。

これらが、ご意見だったと思います。

### **(3) 地域農業振興事業**

#### **■小長谷委員長**

それでは、「地域農業振興事業」について、評価してまいりたいと思います。まず、「取組内容に対する評価」について、有効であったか、それとも、有効とは言えなかったのかを評価いただき、併せて、その理由についてご発言いただきたいと思います。

#### **■吉弘副委員長**

私の評価は、「2. 取り組んだ内容は、有効とは言えなかった」です。理由ですが、KPIはすべて達

成しており、本来であれば有効であると評価されるべきところかもしれませんが、3品の加工品を開発したから達成というKPIの設定自体に疑問を持っており、作ったものをどうするかという視点が不十分であると考えます。6次産業のスタートアップ事業ですので、1品でもいいので売れるものを作るといったKPIでもよかったのではないのでしょうか。誰が買うか、どんなものが求められているかといった視点を抜きにして、作ることが目的化しているというのは、いかがでしょうか。国費で実施しているのだから、重みをもって取り組むべきで考えると思います。成功例を作るため、1品の商品開発に集中的に投資するなど、もう少し丁寧に検討すべきであったと考えます。

#### ■篠原委員

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由としては、6次産業化を希望する農業者に対して連絡会議を設置するなど支援体制を整え、実際に商品を開発した点を評価したいと思います。また、市、大学、事業者が連携し、アイデアを生かした点も良いと考えます。

担い手の育成事業についても、3名の希望者に対して研修を実施するなど、自立就農への道を開いた点も評価できます。

#### ■山中委員

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由としては、農業関係者が集まって知恵を出し合う機会を設けた点が有意義であったと考えます。KPIの設定自体が正しいのかという議論は残りますが、KPIの3項目はすべて達成しており、本年度の事業が効果的であったものと考えます。

#### ■山下委員

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由としては、農業従事者の高齢化や後継者の他の産業への流出に伴う担い手の減少など、都市型農地特有の課題解決を図るため、「産業として成立する農業」の実現に向けて6次産業化を推進することは、有効であると考えます。また、6次産業化を推進するために「連絡協議会」の設置したこと、また、商談会参加により販路を拡大することができたことは、6次産業化を推進するうえで有効であったと思います。また、農空間を次世代へ継承するため、就農実践研修を実施したことも、必要な取組であったと考えます。

#### ■小長谷委員長

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由としては、日本の農業は「再生」が求められており、実際、いくつかの成功事例もあります。再生の鍵は「ブランド化」であり、高付加価値化であり、そのためにも第1次産業生産者が2次産業である加工機能、3次産業である流通機能を有する必要がある、国においても6次産業化を進めているところです。これは、都市型農業革命と言えるもので、地方よりも和泉市のような都市近郊農業でこそ有効と言えます。泉州は、もともと、

特色ある農業を有する地なので、それを活かそうとする政策は評価できます。

それでは、「今後の事業実施方針」について、委員皆さんの評価が、「資料1 事業評価の項目」にも記載されている「評価項目1～4」のいずれに該当するのか、また、その理由についてご発言ください。

また、今後、市が、本事業を推進されるにあたり、意見やアドバイスがある方は、併せてご発言をお願いします。

#### ■吉弘副委員長

私の評価は、「3. さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである」です。理由としては、6次産業化自体は進めるべき政策と考えますが、加工品を作ることに主眼を置かれてしまい、作ったものを農家の収入増加や、農業従事者の増加につなげていくという経営的視点が見過ごされているように思います。国費を使って実施している以上、成功させるための事業展開を実施すべきです。例えば、隠岐島のさざえカレーなど、公費で設備を整え、成功している事例もあるので、それらを参考に、投資的な観点で事業を実施することにより、実りのある事業になると考えます。

#### ■篠原委員

私の評価は、「3. さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである」です。理由としては、新規商品開発事業については、みかん大福、原木しいたけふりかけ、プレミアムミックスリーフなど、商品そのものは良いものだと思いますが、「和泉市の商品」としてのストーリー性が弱いと思います。なぜ「みかん」なのか、なぜ「しいたけ」なのか、それらが人々の暮らしにどう関わってきたのかなど、歴史やストーリーを掘り下げる必要があると考えます。みかん大福ですと、低GIであることを謳っていますが、機能面だけではなくて、人々の暮らしやシビックプライドなどの面から掘り下げる必要があると思います。また、それらをうまく伝えるPRの手法、例えば、写真やコピー、デザインなどについても、工夫が必要だと思います。どういう商品を作り、どう売っていくのかがポイントですので、文化政策的な視点をもって商品開発を行うことが大切であると考えます。

#### ■山中委員

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。理由としては、6次産業化の促進や担い手育成を通じて、地域農業の振興を図ることは有効であるものと思います。ただし、商品を作っただけにとどまっていると思われるので、今後は「クラウドファンディング」を活用してテストマーケティングを行うなど、「売れる商品」作りをするための支援も検討してみはいかがでしょうか。また、そのような個別の支援については、外部機関と連携してディスカッションを行う場があってもいいのではないかと思います。

#### ■山下委員

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。理由としては、大消費地へのアクセスが良いという和泉市の立地を活かし、6次産業化により新たな産業を確立するために取り組むことは良いと思います。しかし、農家のみで取り組むことは、市場ニーズへの対応や商品加工にかかる高コストが課題となり、収益につながりにくいと考えます。そのため、「戦略プラン」の策定や「連絡協議会」の設置により、市が支援体制を強化していくことは好ましいと言えます。また、農業研修プログラムを通じて農業技術を習得している3名については、就農できるよう取組を進めてほしいと思います。6次産業化の推進により、特産品のブランド化を促進することが、現在、研修を受講している就農希望者の就農と自立にもつながると考えます。

#### ■小長谷委員長

私の評価は、「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」です。理由としては、農業再生が課題となっている中、都市型農業革命として良い取組であると考えます。また、ビジネス視点として、例えば、ミュージアムタウンのエリア内の飲食店で使ってもらおうという方法も有効ではないでしょうか。採算性の高いものは、市として更に応援していくべきではえないかと考えます。

それでは、本事業について、委員皆様の評価やご意見が全て出揃いましたので、本委員会としての評価について、まとめてまいりたいと思います。

取組に対する評価としては、4名の委員が「1. 取り組んだ内容は、有効であった」、1名の委員が「2. 取り組んだ内容は、有効とは言えなかった」という評価でした。

本委員会としては、多数のご意見を「評価」といたしますので、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」を本事業の評価といたします。

その理由を整理いたしますと、

- 設定したKPIについて、全て目標値を達成することができたこと、
- 平成28年度において、「6次産業化戦略プラン」の策定や、「連絡協議会」の設立など、6次産業化に取り組む農業者を支援する体制を、行政、大学、事業者等の連携により構築することができた意義は大きいこと、
- 農業従事者の担い手不足に対応するため、新たな農業従事者の育成に取り組んでいることも評価できること、

などが、ご意見だったと思います。

今後の方針に対する評価については、3名の委員が「1. 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである」、2名の委員が「3. さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである」という評価でした。本委員会での評価としては、「1. 効果的な取組を実施していることから、



さらに発展させるべきである」となります。

その理由を整理いたしますと、

- ・6次産業化の推進は、大消費地へアクセスが良いという立地を生かし、都市近郊農業に取り組んでいる和泉市において有効であると考え、
- ・その推進にあたっては、平成28年度に取り組んだ「6次産業化戦略プラン」や「連絡協議会」を効果的に活用していくことが重要であること、
- ・文化政策・観光政策の視点から、本委員会の評価事業である「ミュージアムタウン」と連携することにより、更なる事業効果が見込まれること、
- ・今後販路の拡大を目標に事業を展開していくことが重要であること、
- ・機能性だけでなく、ストーリー性、歴史・気候・文化などの文化性を重視し、マーケティングを展開してほしいこと、
- ・成功例を作ることが重要で、販路の拡大なども含め、集中的に取り組むことが重要であること、
- ・資金調達にあたっては、クラウドファンディングの手法を活用してはどうか、

などが挙げられます。

こうした産業政策は時間を要するので、長期的な視点で取り組む必要があり、更なる工夫を図り、事業を推進していただきたいと思います。

#### (4) 結婚新生活支援事業

##### ■小長谷委員長

それでは最後に、「結婚新生活支援事業」について、評価してまいりたいと思います。まず、「取組内容に対する評価」について、有効であったか、それとも、有効とは言えなかったのかを評価いただき、併せて、その理由についてご発言いただきたいと思います。

##### ■吉弘副委員長

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由ですが、本事業は再分配政策と理解しており、支出件数により評価するよりも、支出された事実を以って評価すべきと考えました。1件でも制度を利用する方がいれば、事業として意味を持っていると思います。

##### ■篠原委員

私の評価は、「2. 取り組んだ内容は、有効とは言えなかった」です。理由としては、試みの意味は感じますが、37件の交付目標に対し8件の実績という結果からすると、周知徹底の面で不足があったのではないかと思います。また、世帯収入300万円未満という上限も足枷になったのではないのでしょうか。今年度は、上限を340万円に引き上げたということですが、今後も改善が必要ではない

かと考えています。

#### ■山中委員

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由ですが、先ほどの説明によれば、相談件数はそれなりにあったということで、要件の見直しを図っていくべきと考えます。KPI の婚姻率の未達については、本事業のみでは達成できるものではなく、KPI の設定自体に無理があったのではないかと考えます。

なお、アンケート結果をみると、一定の事業効果があったのではないかと思います。

#### ■山下委員

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由ですが、要件の所得制限により、申請件数が低調にとどまったと考えますが、結婚に伴う経済的不安の解消を図ることは必要であり、少子化対策の強化としても必要な取組であると思います。

#### ■小長谷委員長

私の評価は、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。理由ですが、人口還流政策としては他にも方法がありますが、アンケート結果を踏まえると、一定の効果があったと考えます。

それでは、「今後の事業実施方針」について、委員皆さんの評価が、「資料1 事業評価の項目」にも記載されている「評価項目1～4」のいずれに該当するのか、また、その理由についてご発言ください。

また、今後、市が、本事業を推進されるにあたり、意見やアドバイスがある方は、併せてご発言をお願いします。

#### ■吉弘副委員長

私の評価は、「3. さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである」です。理由としては、国の施策に連動しているため、市の裁量が少ない事業ですが、人口問題、子育て環境対策としては、他の施策と併せて実施することが必要でしょう。人口を増やす目的の施策という点で、婚姻促進施策がその効果を持ったというエヴィデンスは聞いたことがありません。

なお、男女の結婚支援については、批判も伴うことに注意する必要があり、男女の自由な選択に関与していると言われる可能性もあります。そして、LGBT にも配慮する必要があります。

#### ■篠原委員

私の評価は、「3. さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである」です。理由としては、試みは良いと思いますが、支給額の見直しや世帯収入の上限撤廃などの改善が必要だと考えます。また、効果的な PR を行うことで、事業の方向性が変わってくると思います。例えば、不動産事業者に周知してもらうなど、工夫が必要であると思います。当事者にとってはメリットしかないので、当事

者にどのように知らせるかが重要です。

#### ■山中委員

私の評価は、「3. さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである」です。理由としては、一定効果はあったと思いますが、更に効果的な内容に変える必要があると思います。市外への人口流出の防止も大切ですが、市外からの流入促進が和泉市にとって重要であると思います。その点では、本事業の要件の親元近居が足枷になっているのではないのでしょうか。更に、市外の方が結婚して、和泉市で新生活を始める動機付けとして、もっと特徴的な取組が必要ではないかと思います。

#### ■山下委員

私の評価は、「2. 特に見直しの必要はなく、現在の取組を継続すべきである」です。理由としては、アンケート結果を踏まえると、経済的支援策として有効であったと考えます。所得制限等の交付要件が厳しく、交付件数が目標値には至りませんでした。結婚に伴う経済的不安の解消に向けて、交付要件の見直しを図りながら、継続していただきたいと思います。事業推進にあたっての意見ですが、平成28年度は事業の認知度は低かったと思いますが、一年間取り組んだことにより、認知度も高まったと考えられることから、申請期間の延伸、交付要件等を見直しを図りつつ、経済的不安の解消策として、国の補助制度事業の範囲内で、少しでも交付件数が増加するよう取り組んでいただきたいと思います。

#### ■小長谷委員長

私の評価は、「3. さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである」です。理由としては、要件を見直す必要があり、要件の見直しに限界がある場合は、事業そのものをどうするか検討することも必要と考えます。人口政策としては、教育政策や都市観光魅力の充実などもあり、一時的な転入を促進するのではなく、定住につなげなければ意味がないと思います。

それでは、本事業について、委員皆様の評価やご意見が全て出揃いましたので、本委員会としての評価について、まとめてまいりたいと思います。

取組に対する評価としては、4名の委員が「1. 取り組んだ内容は、有効であった」、1名の委員が「2. 取り組んだ内容は、有効とは言えなかった」という評価でしたので、本委員会の意見としては「1. 取り組んだ内容は、有効であった」とします。

その理由を整理いたしますと、

- 補助金を交付した方を対象に実施したアンケート結果を踏まえると、経済的支援策として、一定の効果はあったと判断できるということが主な理由になろうかと思います。
- しかしながら、補助金の交付件数が、交付目標に達しなかったことについては、国が設定した所得制限等の支給要件が厳しいものであったことは理解できるものの、交付件数の増加に向け

て、より効果的な周知方法に取り組むこともできたのではないかと  
というご意見もございました。

平成 28 年度の取組を踏まえた今後の事業実施方針に対する評価ですが、4名の委員が「3. さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである」、1名の委員が「2. 特に見直しの必要はなく、現在の取組を継続すべきである」という評価でした。その結果、本委員会の評価としては、「3. さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである」となります。

その理由を整理いたしますと、

- 20 歳代人口の市外への転出が顕著となっている和泉市の傾向を踏まえると、人口減少対策として若い世代の経済的不安を解消することも必要な取組であること、
- その一環として本事業を継続していくのであれば、交付実績を増やすことができるよう、所得制限や支給額等の要件を見直すことが必要であり、また、事業の周知方法についても工夫いただきたいこと、
- 国の要件の見直しに限界があるとすれば、事業の継続の是非を検討するべき、

などがご意見だったと思います。

その他の意見としては、

- 人口減少対策として、婚姻促進施策のみの実施が人口減少対策として有効であるとは考えにくいので、他の施策と併せた政策設計が必要である、

というご意見がありましたが、このことは、まったくそのとおりであると思いますので、答申に盛り込んでいきたいと思えます。

私としては、教育都市の政策、既に実施している観光都市魅力の政策、健康都市の政策など、住み続けたい、住み替えたいと思う総合的な政策が必要であると考えます。

ところで、各委員のご意見をお伺いしたいことが、一つございます。「会議資料3」で記載されているとおり、本事業は、国等の補助率は「4分の3」で、市の財政負担は「4分の1」となっています。これが仮に、補助制度がなくなり、市が全額を負担しなければならないとなった場合、市の財政的観点を踏まえたうえでも、本事業は、継続する価値の高い事業であるとお考えでしょうか。

委員全員にお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

#### ■吉弘副委員長

廃止すべきと考えます。

市単独で実施する場合は、政策目標に応じて内容を変えるべきで、流出防止、人口対策という点では、年収 300 万円以下の世帯に 18 万円を支払ったからといって目的を達成できるとは思えませんので、別の効果的な事業を検討すべきであると考えます。

#### ■篠原委員

継続すべきと考えます。

人口増を目指すにあたって、1つだけ大きな施策を行えば増えるというのではなく、細かい施策の積み重ねであると考えます。小さな一歩かもしれませんが、取組を継続することで人口増につながるのではないかと考えます。

#### ■山中委員

継続すべきと考えます。

人口減少や少子化を抜本的に解決するのは難しく、地道に取り組むしかないと思います。ただし、国からの補助がなくなった場合、今以上に効果を上げなければなりませんので、要件を見直し、より定住・移住につなげられるよう、出産・子育て・教育等の助成事業を組み合わせながら、特色ある施策を検討すべきと考えます。

#### ■山下委員

継続すべきと考えます。

他の施策や商工会議所をはじめとした他の機関と連携しながら、取組をすすめていくべきだと思います。

#### ■小長谷委員長

廃止すべきと考えます。

そのうえで、抜本的に様々な工夫を図っていただきたいと思います。

それでは、これ以外に本委員会の答申に盛り込むべきことはございませんでしょうか。

ないようですので、以上をもちまして、市長から諮問されました事業評価を終了させていただきたいと思います。

なお、本日のご意見を取りまとめて、答申（案）を作成してまいります。その作成については、委員長の私に一任していただき、後日、メール等で内容をご確認していただいたうえで、最終的に市長に答申してまいりたいと考えておりますが、よろしいでしょうか？

それでは、本委員会における事業評価は、これにて終了します。

地方創生の取組は、人口減少に歯止めをかけることを目的の一つとしており、非常に難しい取組であると認識しています。和泉市におかれましても、地域特性を活かしつつ取組を進めておられるところですが、どの取組も長期的な視点に立ちながらも、工夫を加えることで効果の高いものになると思います。

今後は、本日の委員会の評価を十分に参考にいただきまして、PDCA サイクルによる見直しを適宜図りながら、和泉市の活性化に向けて、積極的に取り組んでいかれることを期待いたします。

最後に、委員の皆さまにおかれましては、会議の進行にご協力賜り、まことにありがとうございました。

それでは、この後の進行については、事務局の方でお願いします。

## 4 開会あいさつ

### □司会者

小長谷委員長、ありがとうございました。

また、委員の皆さまにおかれましては、本日は、長時間にわたり事業の評価を行っていただきまして、ありがとうございました。

答申作成の事務手続につきましては、答申（案）を委員長に取りまとめていただいた後、委員皆様にメール等でご連絡を差し上げ、ご確認いただいた後、市長あて答申をさせていただきたいと存じます。

併せまして、本日の会議録につきましても、同様の手続で確定したいと存じますので、お忙しいところ恐縮でございますが、ご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、閉会にあたり、副市長の藤原から、ひとことご挨拶申し上げます。

### □藤原副市長

副市長の藤原でございます。

和泉市外部評価委員会の閉会にあたり一言ご挨拶申し上げます。

小長谷委員長様をはじめ、委員皆様方には、たいへんお忙しいなか、長時間にわたり活発なご議論、また事業の評価をいただきまして、誠にありがとうございました。

地方創生関連交付金等を活用して、平成28年度に取組ました4事業につきまして、まず、「美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業」では、エリア全体の回遊性や周辺の街づくりとの関連性を考慮しながら、更に街全体の価値を高めていくため、更に事業を発展させていくべきというご意見でした。

「住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業」では、高齢化の進展を見据えた取組として評価いただいた反面、既存の地縁団体や有料サービスとの差別化・棲み分けに十分考慮する必要があるとのご意見をいただきました。

「地域農業振興事業」では、平成28年度の取組を十分に活用しながら、本市における「成功事例」をつくることに焦点を当てて取組を進めるべきとのご意見をいただきました。

「結婚新生活支援事業」では、人口減少対策として、単なる結婚促進施策にとどまることなく、教

育施策等と連携しながら、より多面的に取り組を進めるべきとのご意見など、様々な改善点をご指摘いただきました。

後日、委員長から市長へご提出いただきます本委員会の「答申」の内容を真摯に受け止めまして、より効果的な取組につなげてまいりたいと考えております。

委員の皆様方には、これからも変わらぬご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、簡単ではございますが、お礼のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

#### 司会者

ありがとうございました。それでは、これもちまして、和泉市外部評価委員会を閉会いたします。

委員の皆様、長時間に渡り誠にありがとうございました。